

報告タイトル

現代インドにおけるムスリム政党の登場と持続：全インド・ムスリム統一評議会の活動を中心に
“The Rise and Persistence of Muslim-Led Political Parties in Contemporary India:
A Case Study of the All India Majlis-e-Ittehadul Muslimeen”

氏名（所属）

板倉 和裕（奈良工業高等専門学校）
ITAKURA Kazuhiro (National Institute of Technology (KOSEN), Nara College)

要旨（800 字程度）

本報告は、インドのハイデラバードを拠点とし、ムスリムを主な支持母体とする政党である、全インド・ムスリム統一評議会（ムスリム評議会）の活動に焦点を当てる。具体的には、①同党がなぜ、いかにして支持を拡大しているのか、②同党の台頭と州政治（特に選挙を中心とする州政治の展開）への影響、そして、③同党の活動の成果と課題について検討を行う。

宗教的にはヒンドゥーが多数派のインドにおいて、ムスリムは宗教的マイノリティの立場にある。しかしながら、彼らが少数派の権利や社会的地位の向上に常に消極的な態度であったかという、そうではない。独立後、ムスリムの社会・経済的な後進性や排除が指摘されながら、それらの状態が持続する中で、近年、彼らは主体的な運動を展開し、積極的に政治的要求を行うようになっていく。ムスリム評議会は、その代表例の一つである。同党は、インド南部の都市ハイデラバード（特に旧市街）に強固な支持基盤を確立し、現在はテランガーナ州議会（119 議席）で7 議席を有している。同党の代表的人物が、現党首で、連邦下院議員のアサドゥッディーン・オワイシである。昨年実施された連邦下院選挙では、ハイデラバード選挙区から出馬し、インド人民党の候補者を下し、5期連続当選を果たした。同人物の指導の下、ムスリム評議会の党勢は拡大し、近隣諸州の地方・州議会選挙にも候補者を擁立するようになっていく。

以上を踏まえ、本報告では、ムスリム評議会の活動に焦点を当て、同党がどのように支持基盤を構築・維持し、近年その他地域にも支持拡大を果たしているのかについて検討を行う。近年実施された州議会選挙（特にムスリム評議会が伝統的地盤を有するテランガーナ州とその他地域のビハール州の2州）の分析を通じて、同党がいかにして有権者の支持調達を試みてきたかを明らかにしつつ、同党進出による州政治への影響や同党の活動の成果と課題についても考察する。